2018 建築甲子園　県大会優勝作品

全国大会ベスト８

青年委員長特別賞受賞

「AAA（All Aomori）

～点から線、線から面へと未来に繋がる絆～

チーム選手（建築科３年）

福士天音・柴田裕也・李　貴英

チーム監督

奥谷　等

AAA（All Aomori）とは

Aptitude　才能・素質（若者が才能を生かす場）
イベントホール

Attractive　魅力的な（青森の魅力を伝える場）
ねぶた製作体験、体験コーナー

Activate　活性化する（青森を活性化させる場）
学習室・会議室・フリースペース

このように各棟は３つのコンセプトから成り立つ建築物の提案である。

青森の魅力で観光客を誘致し、地域の若者の活動の場や学習の場として利用でき、一般の人たちも気軽に立ち寄ることができる空間として計画しました。

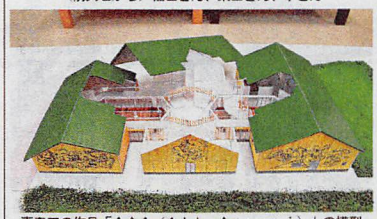
※最終審査用プレゼンテーション動画

実在の倉庫３棟 → 体験型観光施設に

ベイエリア「刷新」高評価

青工 5年ぶりベスト8

建築甲子園で５年ぶりのベスト８に輝いた（前列右から）福士さん、柴田さん、李さん



青森工の作品「AAA（All Aomori）」の模型

建築甲子園

青森　設計を学ぶ高校生による「建築甲子園」（主催・日本建築士会連合会、都道府県建築士会）で、青森工業高校建築科の３年生３人の作品が、全国ベスト８に残り、特別賞に輝いた。この春に進学・就職する３人は21日、表彰状を手に「この経験を生かしたい」と抱負を語った。（熊谷慎吉）

9回目を迎えた今回の大会は「地域の暮らし・リノベーションの可能性」がテーマ。県大会を制し、全国大会に進んだ同校は、出場34校から8校を選ぶ1次審査を通過。プレゼンテーション動画による最終審査の結果、優勝・準優勝は逃したものの特別賞の中の一つ「青年委員長特別賞」が贈られた。同校がベスト8に残るのは5年ぶり。

李貴英さんは「プレゼンを分かりやすくするために動画で模型を見せたり、内容をうまく時間に収めた」と振り返った。福士天音さんは「目標だった全国大会ベスト8に入ることができて、ほっとしている」。柴田裕也さんは「地域の特色や問題点から、何を（設計に）入れていくか考えた。とても勉強になった」と充実感を漂わせた。

同校の作品は、青森市の青森港中央埠頭近くに実在する倉庫3棟を体験型観光施設にリノベーションするもの。ワ・ラッセ、アスパム、県立郷土館などが点在するベイエリアで、「面」としての魅力をアピールできる施設を目指した。若者の県外流出という課題を踏まえ、若者が積極的に活動できる空間も提案した。

前田清孝校長は「これからも足元のことや社会の出来事を良く知り、アンテナを高く立てて、自由に発想することを心掛けてほしい」と激励した。

東奥日報　2019年(平成31年) 1月23日（水）朝刊掲載

【高校生の建築甲子園とは】

公益社団法人 日本建築士会連合会が主催します、高校生による「建築」甲子園。47 都道府県にあります、建築教育課程のある工業高校・高等学校・工業高等専門学校（3 年生まで）が選手として、先生は監督として、毎年違うテーマを基に建築の設計提案コンペを行います。審査はトーナメント方式。1 対 1 での審査を繰り返し、優勝校が決まります。

未来の建築士候補たちの生き生きとして、かつ大胆なアイデアを皆様も応援してください!!　（建築甲子園 HP より）

第９回　高校生の「建築甲子園」応募作品　県大会Ｖ９・全国大会ベスト８・青年委員長特別賞受賞

デザセン2018 FINAL

THEME テーマ

『明日の社会を見つめ、明日の世界を創造する』

高校生を対象としたデザインを冠するコンペは全国に少なからずありますが、「イラスト」「ファッション」「設計」などと、どれも対象を具体的に設定しているのに対し、デザセンではデザインすべき対象を、応募する高校生が自ら発見しなければなりません。あらゆることにしっかりと向き合い、自分の目でよく見て、自分の肌で感じること。そして、社会が抱えている様々な問題に気付き、どうすればより多くの人が豊かに、幸せになれるのかを考える。デザセンでは、デザインは単にものの色やかたちを決める行為ではなく、こうしたプロセスにこそ本質があると捉えています。

ROAD TO FINAL 決勝大会までの道のり

高校生たちは自分たちのアイデアを企画書にまとめ、まずは一次審査の締め切りを目指して応募します。今年は全国910チームからの応募がありました。その中から二次審査へと駒を進めたのは455チーム。企画したアイデアの説得力や表現力、分かりやすさなどに磨きをかけてA2サイズ2枚の提案パネルにまとめて二次審査に応募します。二つの審査を経て決勝大会に出場するのはわずか10チーム!決勝大会では、出場チームが自分たちのアイデアを7分間の制限時間内で、400名の観客を前にプレゼンテーションします。出場が決まってからの約1ヶ月間は、各チームとも連日夜遅くまで準備してきました。
本日、いよいよ各チームのデザインがクライマックスを迎えます!

10
910

デザセン 2018 検索

デザセンHPでは、決戦大会の様子を動画で見ることができます。

『昆Chu♡』

青森工業高等学校(青森県)
福士天音(3年)
高井竜史(3年)
吉田　陽(3年)

世界には十分な食料がない!日本にいるとあまり実感が持てませんが世界では刻々と飢餓が進んでいます。世界人口は30年後には90億人を超えるといわれています。迫る食糧難に向けての解決策が「昆虫食」!しかし、日本人は飽食に慣れ、日本にも昆虫食文化があることも忘れかけています。昆虫への食偏見をなくすことによって食糧難を救います。

デザセン 2018 ファイナル　プレゼンテーション

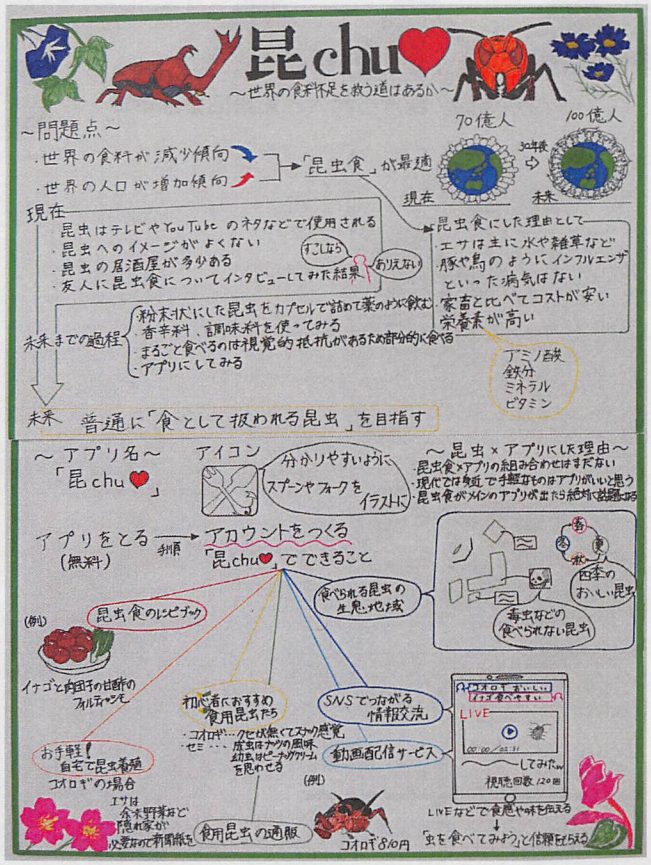
青森工業高校 **「昆 chu♥」**

高井竜史・吉田　陽・福士天音（建築科３年）

【デザセン概要紹介】

今年で 25 回目を迎えた全国高等学校デザイン選手権大会　通称「デザセン」このデザセンは『明日の社会を見つめ、明日の世界を創造する』というテーマのもと、高校生の視点で社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、その解決方法を分かりやすく提案するコンテストです。決勝大会では全国 910 チーム中、二度の審査を勝ち抜いた入賞 10 チームが、自分たちのアイデアを 7 分間の制限時間内にプレゼンテーションを行います。

【提案メッセージ】

「来るべく未来、昆虫は人類を救う！」

昆虫は･･･、実は人類を救う救世主かもしれない!?
幅広い視野と独特の観点から、昆虫食の素晴らしさを伝えます。